

## 寄付者のご芳名

当協会にご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただきます。  
(匿名希望を除く。50音順、2024年8月末現在)  
この紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

國司 有香 様  
鈴木 幹生 様  
花王株式会社  
一般社団法人生産技術振興協会

## 編集委員のページ



### 村田 朱理(むらた じゅり)

帝京大学大学院公衆衛生学研究科研究員、ナビタスクリニック新宿

救急医療科看護師からコロナ病棟で感染症対策に従事。その後帝京大学で公衆衛生学を専攻し、現在は能登半島沖地震の健康観察を行いながら、渡航外来で勤務。

### 合縁奇縁

今から十数年前、私はウガンダで初めて国際保健活動を行いました。この経験が私の人生を大きく変える転機となり、人々の健康を守りたいという強い思いが芽生え、看護師を目指しました。

その後、私の人生にまた大きな転機が訪れました。それは新型コロナウイルスの世界的な流行です。このパンデミックは、公衆衛生の重要性を痛感させました。個々の健康だけでなく、社会全体の健康を守ることの大切さを強く感じ、私は公衆衛生を深く学ぶ必要があると決意し、進学を決めました。

公衆衛生を学ぶ中で、私は長崎大学の熱帯医学研修課程に参加し、プラネタリーヘルスについて知るきっかけを得ました。また、日本WHOの活動にも触れる機会があり、広範な視点を持つことができました。この過程で、先生方や同級生、実地研修で出会った現地の人々、そして世界中から集まった同じ志を持つ仲間たちとの素晴らしい出会いがあり、知識を深めるだけでなく、人間としても大きく成長させてくれました。これらの出会いが今の自分を作り上げ、進むべき道を示してくれました。

「合縁奇縁」という言葉がありますが、本当にその通りだと感じます。人生の中で出会う人々との縁は、時に奇跡的なものであり、それが私たちの人生を大きく変えることがあります。私の経験もまた、そんな奇縁の一例です。これからも新たな出会いを大切にしながら、自分の使命を果たしていきたいと思えます。

## 読者アンケートのお願い

目で見えるWHO編集委員会では、誌面の向上のために、アンケートによって読者のみなさまからのご意見を集めています。まだお答えいただけていない方はぜひ右のQRコードから、ご協力をお願いします。

